

第3章で私は、動詞を異なる意味グループに分類する考え方を紹介し、すべての英語の動詞をたった6つの意味グループに分類することができることを説明しました。

さらに、第4章では、このグループ分けという観点から英語の動詞を考えることが、いかに語法の探索に役立ち、言語学習において有用なテクニックになるかということを示しました。

この章では、同じ観点から、発言に関わる動詞（発言動詞）と行動のタイプに関わる動詞（行動動詞）を検討し、同時に、多くの英語学習者が抱えるいくつかの問題を解決する道筋をつけたいと思います。

## ❖日本語との比較

みなさんが、英和辞典で、speak, talk, say, tell を引くと、次のような訳語が見つかるでしょう。

speak	話す、ものを言う、しゃべる
talk	話をする、しゃべる
say	言う、述べる、話す
tell	言う、話す、語る、述べる

これらの訳語は、一見、どれも似通っているようですが、少し注意して見てみると、単語ごとに何らかの共通点があるようにも思われます。英和辞書の訳語は厳密につけられたものであることを考慮に入れると、これらの訳語の違いは、私たちに何を訴えかけているのでしょうか？

まず、英語も、日本語訳も、ここに書かれているものはすべ

て、発言に関わる動詞のように思えます。例えば、「話す」は明らかに発言に関わる動詞であり、speak と say と tell の意味をカバーしていますし、talk の訳語の一つは「話をする」です。

しかし、これらの日本語訳をもう少し詳しく調べると、これらの動詞の違いが徐々に明らかになってきます。「しゃべる」は speak と talk のみに適用でき、「述べる」と「言う」は say と tell だけに適用することができることに気がつくでしょう。

言い換えれば、speak/talk と say/tell はそれぞれ別々のペアだということです。

「しゃべる」の意味を考え、それを「述べる」「言う」と比べれば、「しゃべる」は、「発言」の意味に重きをおく「述べる」「言う」よりも、強く「行動」の意味をその中にもつことが明らかです。

このことから、speak と talk は発言に関わる動詞ではなく、行動のタイプに関わる動詞であることが指摘されます。他方、say/tell のペアは発言に関わる動詞です。日本語の訳語がとらえようとしているのは、この区別なのです。

ここまできると以下のようになります。

- (1) speak/talk と say/tell という2つのペアがある。
- (2) speak/talk のペアは行動動詞であり、say/tell は発言動詞である。
- (3) 訳語では、それらのペアの間で重なり合う部分があるにもかかわらず、辞書は、一方には「しゃべる」、もう一方には「話す/言う」という訳語を加えることにより、その区別をつけようとしている。